

## MERS（中東呼吸器症候群）に関する情報提供

---

MERS は、2012 年に初めて確認された新しい種類のコロナウイルスによる感染症です。

現在、韓国での感染の発生・拡大が注目されていますが、元々の中東地域で発症した感染症で、感染例及び感染死亡例の多くは中東で発生しています。

韓国では、2015 年 5 月、バーレーンから帰国した韓国人男性が発症し、入院した医療機関で二次感染が発生し、感染が拡大しました。中国では、渡航した韓国人 1 名の感染が確認されただけですが、予断は許さない状況です。

主な症状・・・発熱、咳、息切れなどです。MERS に感染しても症状が現れない人もいますが、高齢の方や糖尿病などの基礎疾患のある人が重症化する傾向にあります。

潜伏期間・・・4～7 日（最大 14 日）

治療方法・・・MERS に対するワクチンや特異的な治療法はありません。患者の症状に応じた治療（対症療法）になります。

感染経路・・・ヒトコブラクダが感染源動物の一つとされていますが、人がどのようにして感染するかは正確にはわかっていません。家族間や医療機関での患者間では、主に飛沫感染（咳やくしゃみ）又は接触感染によると考えられています。

### 中東地域や韓国等の流行国に渡航する場合の注意点

#### 渡航前

---

休息、栄養を十分に取り、体に抵抗力をつける。

糖尿病や慢性肺疾患などの基礎疾患がある者は、渡航前にかかりつけの医師に相談し渡航の是非について検討する。

現地の最新情報を外務省ホームページ、在外日本国大使館ホームページなどで確認する。

#### 渡航中

---

手指等の衛生保持に心がける。

できるだけ人混みを避け、マスクの着用を励行する。

咳やくしゃみの症状がある人や動物（ラクダを含む）との接触は、可能な限り避ける。

韓国では、MERS 感染者と密接接触した者は、隔離措置対象者として出国禁止措置を講じているため、すぐに出国できない場合がある。

## 渡航後

---

帰国時に発熱や咳などの症状がある場合は、空港内の検疫所へ申し出る。

帰国後 14 日以内に、発熱や咳などの症状がみられたら、**直接医療機関には行かずに、もよりの保健所に連絡して指示を仰ぐとともに、所属組織に連絡する。**（つくば保健所：tel.029-851-9287）

## 参考

MERS 疑似症患者として扱われる韓国からの帰国者は、発熱又は咳などの症状があり、発症前 14 日以内に、

1. MERS が疑われる者の診察、看護、介護を行った者
2. MERS が疑われる者と同居（病室、病棟への滞在を含む）していた者
3. MERS が疑われる者の気道分泌液、体液等に直接接触した者

となり、渡航歴があるだけでは疑似症患者としての保健所への届出は行われません。

MERS に対しては、必要以上に恐れることはありませんが、万が一自分の身近で発生した場合には、冷静な対応が求められています。次のホームページ等から最新情報を入手するようお願いします。

[外務省海外安全ホームページ](#)

[厚生労働省検疫所ホームページ](#)